

東北住友大阪生コン会は9月20、21の両日、山形県鶴岡市の由良温泉・八乙女で合同技術研修会を開いた。東北6県の同生コン会技術会では毎年、県単位で報告会を開催してきたが、今年度は18年ぶりに東北各県の技術会の活動を報告した。また、生コン工場にとって重要なJIS制度や、製造した生コンを打設するポンプ業の動向、試験室に所属する技術者にとって職業病とも言える腰痛予防をテーマとした講演など、多岐にわたって話題が提供された。



佐藤課長補佐

東北住友大阪生コン会は9月20、21の両日、山形県鶴岡市の由良温泉・八乙女で合同技術研修会を開いた。東北6県の同生コン会技術会では毎年、県単位で報告会を開催してきたが、今年度は18年ぶりに東北各県の技術会の活動を報告した。また、生コン工場にとって重要なJIS制度や、製造した生コンを打設するポンプ業の動向、試験室に所属する技術者にとって職業病とも言える腰痛予防をテーマとした講演など、多岐にわたって話題が提供された。



腰痛ベルトの使用が腰痛予防に有効

THE CONCRETE SHIMBUN
骨材・コンクリート製品

各県の活動成果を紹介 研究所との共同成果も



吉田取締役

研修会は、講演と各県技術会の活動報告を分けて行った。講演では東北経済産業局の地域経済部産業技術課の佐藤課長補佐が「平成30年度JIS立入検査結果等について」の題で講演した。70年ぶりの大改正となった工業標準化法改正の概要や東北6県のJIS認証件数などについて説明した上で、昨年度のJIS立入検査結果を紹介した。認証の取消し、一時停止の要件を説明し、国の立入検査受検時のポイントを説明した。また、全国の立入検査の結果、18%の生コン工場で指摘事項があったとし、省力化ではアイストリビュータ工法の使

用、IT化では大成建設の「TOCIM」、住友セメントシステム開発の「Super Net P-S-G」、極東開発工業の「K-Data SS」などを紹介し、これらの技術を組み合わせることで現場の打ち込み状況やコンクリートミキサ車の出荷量について説明。一例として同社が所属する山形県コンクリート運送協会と山形中央生コンクリート協同組合が合同で山形市、天童市で災害支援協定を締結し、消防活動連携放水訓練の様子を紹介した。

また、省力化、IT化への対応が不可欠と指摘事項があったとし、省力化ではアイストリビュータ工法の使

用、IT化では大成建設の「TOCIM」、住友セメントシステム開発の「Super Net P-S-G」、極東開発工業の「K-Data SS」などを紹介し、これらの技術を組み合わせることで現場の打ち込み状況やコンクリートミキサ車の出荷量について説明。一例として同社が所属する山形県コンクリート運送協会と山形中央生コンクリート協同組合が合同で山形市、天童市で災害支援協定を締結し、消防活動連携放水訓練の様子を紹介した。

また、省力化、IT化への対応が不可欠と指摘事項があったとし、省力化ではアイストリビュータ工法の使

導について紹介した。続いて大手ポンプ業者であるヤマコンの吉田兼治取締役が「コンクリートポンプ工法の現状」の題で講演した。吉田取締役は災害の多い日本での国土強靱化の重要性やポンプ車の活躍について説明。一例として同社が所属する

用、IT化では大成建設の「TOCIM」、住友セメントシステム開発の「Super Net P-S-G」、極東開発工業の「K-Data SS」などを紹介し、これらの技術を組み合わせることで現場の打ち込み状況やコンクリートミキサ車の出荷量について説明。一例として同社が所属する

腰痛予防で提案
2日目は、ポテイルビルディングジムパークの伊藤祐輔代表が「腰痛予防について」の題で講演した。生コン技術者にとって腰痛は職業病とも言われているが、伊藤代表は「原因のない痛みは、原因のない痛みはない」とし、筋肉のこ

を3m高くしたり、スコップのサイズを少し長くするだけで、腰痛を軽減した。

また、腰痛予防のストレッチを実演した。

近年の技術研修会は講演と懇親がメインで、技術発表会を開いていなかった。そこで、今回から各県技術会が活動の成果を報告する「各県技術会からの報告」を設けた。

から、大臣認定取得に向けた実験の成果を報告した。

岩手技術会は「スリップフォーム工法の配合について」を校閲した。東北化学工業岩手生コン工場が発表した。三陸沿岸道路久慈北道路高架橋防護欄設置でスリップフォーム工法が用いられ、配合や圧縮強度のデータ、打設の状況について説明した。この中で、プラントからミキサ車への積み込みが難しかった点や、空重量の調整、打設時に起こったトラブルなどを課題にあげた。

宮城技術会は「宮城住友大阪生コン技術会近況報告」を堀新一氏（クリハラ生コン）が発表した。クリハラ生コンが出荷した膨張材や短繊維入りコンクリートといった特殊コンクリートについて、現場打設時の状況を説明した。

福島技術会「セメント量を低減した高流動コンクリートの配合検討」について渡邊源氏（石川生コンクリート）が発表した。トンネル覆工をコンクリート打設する際の充填性向上、作業効率アップを目的にセメント量を低減した目標スペックを満足する配合で高流動コンクリートの製造を試みた。配合検討や相骨材量、ペースト量などから配合を決めた。その結果から、普通コンクリートの配合をベースに高流動コンクリートの配合を作成するのは難しい場合があり、骨材種類に合わせてセメント量、ペースト量、相骨材量の検討が必要と指摘した。

青森生コン会・技術部会は「コンクリートの打設時の特徴等について」を藤健一氏（むつ小川原生コンクリート）が発表した。むつ小川原生コンクリート社が原子燃料サイクル施設といった特殊施設向けの生コン出荷や打設時の特徴について紹介した。

また、2日目は鹿間生コンクリートと住友大阪セメントのセミナー・コンクリート研究所で共同研究した「共同研究・寒冷地における早期交通開放型コンクリート舗装の検討」と題して、鹿間生コンの堀越大助氏と住友大阪セメントの宮岡雅裕氏が講演した。両社が寒冷地でのIDAYPAVE早期交通開放型コンクリート舗装の普及を目指し、実際に行った研究内容や過去に日本コンクリート工学会年次大会で発表した論文を紹介した。

を取り、強靱な国土づくりにまい進したいと述べた。

山形会技術部会は「これまでの活動の概要報告」を設楽直樹氏（村山生コン）が発表した。山形技術会が過去10年間の活動紹介や、乾燥収縮対応、耐凍害コンクリート、コンクリート静弾性係数など調査した事例を紹介し、外部での論文発表の成果や技術研修会の概要、現在の委員会が取り組む研究事例などを説明した。